

事例24 単元名 古典に親しもう

## 活用力を育むために—グループ活動を取り入れて—

国語科 第1学年  
七尾市立朝日中学校

### 1 事例の概要

本校では、本年度より2年間「活用力」向上推進事業「活用力向上推進モデル校」の指定を受け、研究実践を始めた。「自ら考え、豊かに学び、よりよく生きる生徒の育成～確かな学力の向上をめざして～」という研究課題をたて取り組んでいる。

本校の生徒は、学習課題に対して意欲的に考えることができ、音読など大きな声を出すことに抵抗感はないが、自分の意見を発表することは、恥ずかしいと感じているところが見受けられる。小グループ活動を取り入れることで自分の意見を発表することへの抵抗感が和らぎ、また意見交換しながらより考えを深めていくことで、活用力を培うことができると考えた。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・平安時代の生活や清少納言について知り、古典に興味を持とうとする。(国語に関する関心・意欲・態度)
- ・筆者の季節に対する感じ方やものの見方をおおまかにとらえることができる。(読むこと)
- ・歴史的仮名遣いや古文特有の語について理解できる。(言語事項)

#### (2) 指導上の工夫点(視点)

##### ① 指導法の工夫

- ・小グループでの話し合い活動を取り入れ意見交換することで、考えを構築していく場とした。
- ・小グループ活動の際、司会者には進行台本を提示し、段階を追った話し合いができるようにした。

##### ② 国語科としての活動の工夫

- ・活用力を育むための6つの学習活動について具体例を考えた。本単元ではⅠ・Ⅲに重点を置いた。
- ・古典の入門期であるため、抵抗感の少ない音読を多く取り入れた。
- ・読むことの目標達成に向け、「私の枕草子」を書いた。その際、清少納言の表現方法を参考にしよう提示した。
- ・互いの作品(「私の枕草子」)を読み、清少納言のどんな表現方法を参考にしたかを考えることで、読みを深める。

##### ③ 学習定着のための工夫

- ・自己評価させる。

B - 1 単元計画

B - 2 活用力を育むための6つの学習活動

### 3 指導の実際

学習内容・活動	評価場面	指導上の留意点（支援）
1. グループ毎に「私の枕草子」を発表する。清少納言のどんな表現方法を参考にしたか指摘し合い相互評価する。	《活用力場面》 「私の枕草子」で清少納言のどの表現を使ったか、読み取る場面。	・形態を3～4人班にし、発表者は立たせる。 ・司会者には進行の仕方を示す。
2. グループでそれぞれがよく工夫されたところについて意見交換する。	■評価観点④ それぞれが書いた「私の枕草子」を相互評価する交流を通して、季節に対する感じ方を広めている。	・司会者には話し合う事項について、例を示す。（意見・質問を交換するよう促す。）
3. 各グループの「工夫大賞」を選び、「私の枕草子」と工夫について発表する。	《活用力場面》 「私の枕草子」に表現するために意図したこと、選ばれた根拠を説明する場面。	・グループから二人発表者を出し、工夫大賞に選ばれた人が「私の枕草子」を発表し、一人が工夫点を解説する。 ・実物投影機を使い、発表していることが全体にわかるようにする。
4. 自己評価する。		

C - 1 指導案

C - 2 ワークシート

C - 3 進行台本

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・書く活動や話し合う活動で思考すること、判断すること、表現することを段階的に示すことで生徒たちは手がかりを得て学習することができた。
- ・小グループ活動を取り入れたことで発言量が増えた。それは、進行台本を示すことで、述べる機会の設定→自分の考えと相手の考えを比べる→相手の考えを理解し、自分の考えを伝達するという方法を習得し、別の機会にいかすことができた。
- ・グループの意見をまとめなければいけないという場面では生徒たちはいろいろな視点を出しあい、よく思考することができていた。

#### (2) 課題

- ・グループ活動では、そのねらい、メリットを明確にしなければならない。
- ・グループ活動では、リーダー養成とともに学ぶ集団を高めるため構成員の在り方を教え、気づかせる必要がある。
- ・グループでの話し合いはゴール（見通し）を持って交流しなければならない。活動することによってどんなよいことがあるのか示す必要がある。
- ・グループ活動で交流することが意味のあるものであることを示すためにも、次の話し合いに入る前には褒めてあげることが大切である。その方法も口頭で褒めるほか、板書することもよいのではないか。板書したことは注目する。褒めることで全体の交流にもなり、生徒はヒントを得ることができる。
- ・マニュアルから離れたところに本当の思考がある。話し合い活動を今後も取り入れたい。